

Amir Tsarfati 氏 2019 年 2 月 6 日公開 メノーラーの奥義

お父様。今日の主題であるメノーラーについて、私たちが、全体を理解できるように助けてください。あなたが目的を持って、いつの間、イスラエルの民の手に託されたものです。

お父様。あなたの御言葉の全体を通して、私たちは、とても多くを学ぶことが出来、そして私たちは、イエス様のことをよく理解することが出来ることを感謝します。

あなたに感謝し、あなたを祝福します。イエス様の御名によって。アーメン。

アーメン！

皆さん、おはようございます。

世界中で、非常に多くの人達が魅了され、目を輝かせるトピックの一つ、「メノーラー」の言葉を出した時、皆が、「わあ！」となります。しかし、はっきりいうと、多くの人却不知道が、「ダビデの星」は、ユダヤとは全く関係がありません。これは、聖書的でもありません。と言うと、多くの人が思っているでしょう。

「でも、ちょっと待って！国旗にあるじゃないか？」

私が、「ダビデの星」を皆さんにお見せすると、すぐさま皆さんが思い浮かべるのは、ユダヤ人か、あるいはイスラエルでしょう。



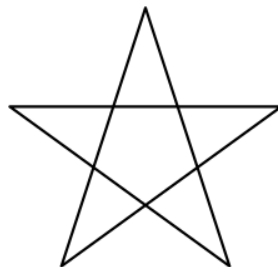
イスラエルの国旗

もし私が、「鉤十字」を皆さんに見せて、一番に思い浮かべることを聞いたら、ナチス・ドイツでしょう。



鉤十字

もし皆さんが、「ペンタグラム/五芒星」角が5つある星を目にした時、すぐに思い浮かぶのは、カルト、悪魔崇拝でしょう。



五芒星

しかし、これら3つのシンボルはどれも、2000年前は、建物を飾っていたのです。シナゴグでさえ、そうでした。これらのどれ一つとして、今日の私たちがイメージするものとは違っていました。ダビデの星も、カギ十字も、五芒星も。ですから、仮に、みなさんが考古学者で、約2000年とか、2200年前の古い町を発掘しに行き、そこで、ダビデの星を発見したとしても、そこがユダヤ人の町であったと、^{ただ}直ちに結論づける

ことは出来ません。同様に、2000年前のモザイクの床に、カギ十字を見つけたとしても、ナチスが2000年前にそこにいたとは言えません。

では、究極のもの、一旦、考古学者が見つかるなら、^{ただ}直ちにユダヤ的だと結論づけることの出来るものとは、何でしょうか？

もちろん、それは、メノーラーです。では、メノーラーとは何でしょうか？

私たちは、メノーラーについて、どこで耳にしますか？出エジプト記25章31～40節で、モーセが、イスラエルの民と^{あらの}荒野にいた時、主が、何をどうすべきかを、具体的に指導された事が分かります。主は、言われます。

31 ^{じゆんきん}純金で^{しよくだい}燭台を作りなさい。…

「純金」と言ってください。

「純金」

神は、いつもそれを使えと言われるわけではありません。しかし、ここでは確実に「純金」です。

31 …^{しよくだい}燭台は打ち出し作りとし、^{だいざ}台座と^{しちゆう}支柱、^{がく}萼と^{ふし}節と^{かべん}花卉は “一体” でなければならない。…

(出エジプト記25:31 新共同訳)

これは、あなたは“^{ふし}節”を、あなたは“^{かべん}花卉”を作って、そして組み立てる、というのではなく、1つの金の塊から、全てを形作っていきます。

それから、聖書は告げています。

32 六つの枝をそのわきから、…

(出エジプト記25:32a 新改訳第三版)

言い換えると、茎、大きな幹があり、そのわきから、それぞれ3本ずつ、6本の枝が出るのです。そして、聖書は告げています。

32 六本の^{しちゆう}支柱が左右に出るように作り、一方に三本、他方に三本付ける。

33 一本の支柱には、三つのアーモンドの花の形をした^{がく}萼と^{ふし}節と^{かべん}花卉を付け、もう一本の支柱にも、三つのアーモンドの花の形をした萼と節と花卉を付ける。…

(出エジプト記25:32～33a 新共同訳)

よく見てください。主は、メノーラーを作るための、具体的な木の種類を示しておられます。これは、イチジクの木ではなく、オリーブの木でも、ぶどうの木でもありません。これらは、全て非常に聖書的なものですよ？

しかし、アーモンドなのです。わお！



メノーラー

それから聖書は続けます。

33 燭台から^わ分かれて出ている六本の支柱を同じように作る。

- 34 燭台の支柱しゆちゆうには、四つのアーモンドの花の形をした萼と節ついでと花卉を付ける。
- 35 節は、支柱が対になって出ている所に一つ、その次に支柱が対になって出ている所に一つ、またその次に支柱が対になって出ている所に一つと、燭台の支柱から出ている六本の支柱の付け根の所に作る。
- 36 これらの節と支柱は支柱と一体でなければならず、燭台全体は一枚の純金の打ち出し作りとする。…
(出エジプト記 25:33b~36 新共同訳)

主は、彼らに言うておられます。

「これは、最高傑作でなければならない。」

「そこら辺から集めて組み立てるのではなく、ひと塊かたまりの金でなければならない。」
と。それから聖書は告げます。

- 38 また、芯切り鋏しんと火皿ばさみを純金で作る。
- 39 燭台とこれらすべての祭具さいぐとを重さ一キカルさいくの純金で作る。
- 40 あなたはこの“山”で示された作り方に従い、注意して作りなさい。
(出エジプト記 25:38-40 新共同訳)

私は、人から

「神は、シナイ山でモーセに話をするのに、どうして、あんなに時間がかかったんだ？」
と聞かれますが、40日です。神は、モーセに見せることが、非常にたくさんあったのです。
そして、神がモーセに指示を与える時、神は言われました。

「モーセ、覚えているか？わたしが、あなたに見せたものを覚えているか？あの通りにするんだ。」

ということで、モーセが、行おこなうようにと指示された事の全ては、——ところで、それを作ったのは、ベツアルエル（書記注：出エジプト記 35:30 参照）という芸術家です。モーセは、何かをするように命令を受け、そして巧みにそれが出来る者に託しました。

ただ、皆さんに知っていて欲しいのは、それは、モーセがすでに知っているべき事だったのです。
そのために、神は、モーセに語っておられたのです。

「モーセよ。わたしがあなたに言った事を、覚えているか？」

「モーセよ。わたしがあなたに示したものを覚えているか？」

「わたしが、あなたに見せた、天国のこと、神聖な事を覚えているか？」

「次にあなたは、その型、複製版を作るのだ。わたしが、天国から明らかにして、あなたが見たもの、それを、この地上で作りなさい。」

ですから私たちは、ここに書かれている言葉から、いつも、それを理解することが出来ます。

神は、モーセに言うておられます。

「あなたがこれから創るものは、あなたの知る、すでに存在している物を、あなたが思い出すためだ。」

では、私たちがメノーラーを持っていたのは、何時いつだったでしょう？

多くの人、その存在に感動します。

そこで、まず第一に、出エジプト記 20:5 にある通り、メノーラーは、器具の一部で？——幕屋の中にありました。

ユダヤ人は、荒野あらのを彷徨さまよっていた時代、人の手で作られた建物は、持っていませんでした。

彼らは、幕屋を持っていて、それは、会見の天幕と呼ばれ、布で作られた天幕でした。

聖書は、出エジプト記 33 章に記録していますが、そこは、神が、モーセと顔と顔を合わせた場所です。

では、出エジプト記 33 章を見てみましょう。私がお読みしますが、ここは最も悲しくもあり、感動する話の一つです。

- 1 主はモーセに仰せられた。「あなたも、あなたがエジプトの地から連れ上った民も、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓って、『これをあなたの子孫に与える』と言った地にここから上って行け。
- 2 わたしはあなたがたの前に…
主は、誰を遣わすと言われましたか？
- 2 わたしはあなたがたの前にひとりの使いを遣わし、わたしが、カナン人、エモリ人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を追い払い、…
これらは、7つの国です。それから、主は言われます。
- 3 乳と蜜の流れる地にあなたがたを行かせよう。わたしは、あなたがたのうちにあつては上らないからである。…

(出エジプト記 33:1-3a)

神は、モーセに言われました。

「行きなさい。わたしは、御使いをあなたと一緒にに行かせるが、わたしは、あなたと一緒にには行かない。」

これは、金の子牛の直後です。

神は、「わたしは行かない。」と言われるのです。

なぜか？

- 3 あなたがたは、うなじのこわい民であるから、わたしが途中であなたがたを絶ち滅ぼすようなことがあるといけないから。」

(出エジプト記 33:3b)

「あなたがたは、あまりにもひどいから、わたしがあなたがたを滅ぼしてしまわないように、御使いと一緒にに行かせる。」

- 4 民はこの悪い知らせを聞いて悲しみ痛み、だれひとり、その飾り物を身に着ける者はいなかった。
- 5 主はモーセに、仰せられた。「イスラエル人に言え。あなたがたは、うなじのこわい民だ。一時でもあなたがたのうちにあつて、上って行こうものなら、わたしはあなたがたを絶ち滅ぼしてしまおう。今、あなたがたの飾り物を身から取りはずしなさい。そうすれば、わたしはあなたがたをどうするかを考えよう。」
- 6 それで、イスラエル人はホレブの山以来、その飾り物を取りはずしていた。
- 7 モーセはいつも天幕を取り、自分のためにこれを宿営の外の、宿営から離れた所に張り、

(出エジプト記 33:4-7a)

このパターンを見てください。主は、今や宿営の外に居られるのです。

- 7 そしてこれを会見の天幕と呼んでいた。だれでも主に伺いを立てる者は、宿営の外にある会見の天幕に行くのであった。
- 8 モーセがこの天幕に出て行くときは、民はみな立ち上がり、おのおの自分の天幕の入口に立って、モーセが天幕にはいるまで、彼を見守った。
- 9 モーセが天幕にはいると、雲の柱が降りて来て、天幕の入口に立った。主はモーセと語られた。
- 10 民は、みな、天幕の入口に雲の柱が立つのを見た。民はみな立って、おのおの自分の天幕の入口で伏し拝んだ。
- 11 主は、人が自分の友と語るように、顔と顔とを合わせてモーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が、幕屋を離れないでいた。

(出エジプト記 33:7-11)

そしてこの節の少し後に、モーセは、主に

- 18 「…あなたの栄光を私に見せてください。」

(出エジプト記 33:18b)

と言いますが、主は、言われました。

20 「…人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

(出エジプト記 33:20b)

では、モーセは誰と話をしていたのでしょうか？

“人が自分の友と語るように、顔と顔とを合わせて” 会見の天幕の中で、モーセに語っておられたのは、誰だったのでしょか？もし、誰も御父の顔を見られないのなら？わお！

ということで、幕屋の中、会見の天幕では、すでに神には、イエスの存在があったことが分かります。モーセと共に。それは、幕屋の中でした。

また、私たちの知っている通り、幕屋は、彼らがイスラエルの地に入るまで、ずっと一緒に移動していました。そして彼らは、その天幕を 600 年近くの間、シロに張っていたのです。

しかしそれは、ダビデ王の時までです。覚えていますか？彼は、言いました。

「主よ。私は、あなたのための家を建てたいのです。」

「私は立派な宮殿に住んでいるのに、あなたが小さな幕屋に住んでおられるなんて、出来ません。」

「どうか、建てさせてください。」

(書記注：第一サムエル 7:2、第一歴代誌 17:1 参照)

すると、主は言われました。

「ダビデよ。わたしは、あなたを愛しているが、あなたの手は、あまりにも多くの血が付いている。だが、聞きなさい。あなたの息子が、わたしのために神殿を建てなのだ。」

(書記注：第一歴代誌 22:8 参照)

ですから、エルサレムに建てられた最初の神殿、紀元前約 1000 年に、ソロモンによって建てられたものが、初めての常設の建物でした。

聖書は、第一列王記でこのように告げています。

48 …ソロモンは主の宮にあるすべての用具を作った。すなわち、金の祭壇と供えのパンを載せる金の机、…

それから、ソロモンがした事を見てください。

49 純金の燭台(複数系)…

ソロモンのした事を見てください。

——内堂の右側に五つ、左側に五つ——

ソロモンは、メノーラーを 10 個作りました。必要なのは、1 つだけでしたが。

…金の花模様、ともしび皿、心切りばさみを作った。

50 また、純金の皿と、心取りばさみ、鉢、平皿、火皿を純金で作った。…

(第一列王記 7:48-50)

彼は、メノーラーを 10 回複製したのです。

そして、私たちの知っている通り、この神殿は紀元前 586 年、バビロンの王ネブカデネザルによって、破壊されました。

それから、第二神殿が建てられました。

さて、多くの方が、第一神殿の財宝は、バビロンが来て破壊する直前に隠されたと信じています。

事実、皆さんはご存じないかも知れませんが、第一神殿にあった契約の箱は、第二神殿の中には、存在しませんでした。第二神殿では、至聖所の中に、契約の箱はなかったのです。契約の箱だけは、唯一、回復出来ないものでした。

しかし、メノーラーはあったはずで、少なくとも、10 個のうちの 1 つは。

彼らは、そこに持っていましたから。それにメノーラーは大きくて、私よりも背が高かったのです。ひと塊かたまりの金で出来ていて、巨大でした。そして大祭司は、毎日、衣をまとって、新鮮な油を携たずさえて傾斜けいしゃを上のぼって上まで行き、火を灯ともしていたのです。毎日、新しい油。

22 …主のあわれみは尽きないからだ。

23 それは朝ごとに新しい。…

(哀歌 3:22b~23a)

そして燭台は、毎日、一日中、継続して光を提供しました。

しかし、西暦 70 年、ローマ帝国に敵対して、大きなユダヤ人の反乱が起こります。それは西暦 66 年に始まって、最初の 1 年半は、彼らが大成功しました。ところが、ローマは最大の大砲を持ち込み、最も重要な将官ベスパシアヌスを送りました。彼らの言葉では、ウェスパシアヌスと呼ばれます。そして彼は、若い彼の息子を連れて来ました。彼の名は、ティトウス・ウェスパシアヌス。

そして、ウェスパシアヌスが、ローマに呼び戻され、皇帝になった時、彼の息子は、継続してユダヤを包囲し、最終的に神殿を破壊しました。そこで、皆さんにご覧いただきたいのは、はい！皆さん、あれをご覧ください。今日のイスラエル国家の紋章は、ここの、このメノーラーから取られています。全ての正式なイスラエル人は、許可証にこれがあります。

運転免許証、身分証明証書、全ての公式証明書、全てに、イスラエル国家の紋章が無ければなりません。



イスラエル国家の紋章

そしてそのメノーラーは、ここから来ているのです。

しかも、このメノーラーは、どこにあると思いますか？

このメノーラーは、ローマのティトウスの凱旋門がいせんもんにあります。



イタリア・ローマにあるティトウス凱旋門のレリーフ

そしてこのメノーラーは、実際には、ローマの勝利の行進の時に、はるばるローマにまで、ユダヤ人たちが運んで来た、多くの戦利品の一部でした。私たちは、それを知っています。

事実、作家フラウィウス・ヨセフスが、告げています。

メノーラー及び、神殿の財宝の全ては、はるばる「平和の神殿」まで運び込まれました。

そこは、皇帝ウエスパシアヌスが建て、ユダヤ人大反乱の終わりを祝ったものです。そこは、西暦 75 年に開館し、エルサレム征服によって集められた、最も高価な戦利品が置かれていました。その中には、神殿の都から奪った、7つの枝の燭台、銀のラツパも含まれています。またその中には、私たちが今見た、ローマのウィア・サクラにある、ティトウスの凱旋門に派手に掘られているものも含まれます。皆さん、私たちは、それがあそこにあることを知っています。歴史家フラウィウス・ヨセフスが、それが持って行かれた、と告げているのです。

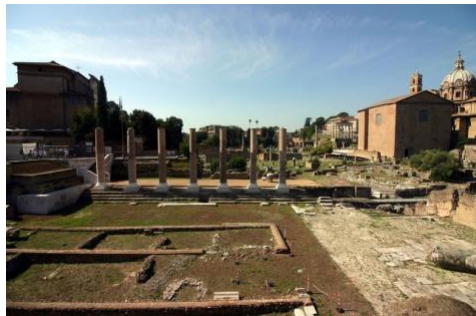
彼は、あそこ、ローマにいて、それを目撃したのです。

さらにまた、私たちは、それが、あの凱旋門に掘られているのを見ました。

そこで、「メノーラーは、どこにあったのか？」と聞かれるなら、

メノーラーは、幕屋の中にもありました。それからメノーラーは、第一神殿の中にもあり、それからメノーラーは、第二神殿の中にもあって、それから、メノーラーは、エルサレムの都から去り、エルサレムの都にはありませんでした。

非常に興味深いのは、当時、あちらの神殿、平和の神殿は、このような外見でした。



ウエスパシアヌスのフォーラム

巨大で、エルサレムの神殿の財宝が全て展示されていました。

誰でも来て、それを見ることが出来たのです。しかしこれは、1世紀に全焼します。

ただ、皆さんにお伝えしておきますと、彼らが中に入って、焼け跡を見た時、そこら辺に、溶けた金は一切見つかりませんでした。

さて、この中で、エルサレムを訪れたことのある人は、どれぐらいいますか？

はい。では、エルサレムに行ってみたいと思っている方は、どれぐらいいますか？

では、自分は、エルサレムを見られると信じている人は、どれぐらいいますか？はい。

そこで、いつであれ、皆さんがエルサレムを訪れる時… 皆さんは、訪れますよ？

それは、皆さんに言うておきます。

皆さんが、エルサレムを訪れると、この写真を見てください。

これは、私が自分のカメラで撮った写真です。

これは、こんにち、エルサレムのユダヤ人広場に建っているメノーラーです。



エルサレムのユダヤ人広場のメノーラー

そしてこれは、私達が先ほど見た、ティトウスの凱旋門を元に、復元されたものです。

私たちは、サイズ的にも、外見的にも、第一神殿と、第二神殿の時代の金のメノーラーは、まさにこのようだったと信じています。

また、このメノーラーが、今日のユダヤ人広場に立っている理由は、ユダヤ人たちは、すでに、第三神殿の準備をしているからです。彼らはすでに、器具や飾りや全ての祭司の仕事^{おこな}を準備し、人々を訓練しています。彼らはそれを、彼らが発見した書物に従って、その大きさや形、全てを行^{おこな}っているのです。ユダヤのタルムードや、ミシュナー、ユダヤ教の書物には、全てにおいて詳細^{しょうさい}が記されています。非常に興味深いです。

ということで、現代の時点では、第一神殿、第二神殿の時のメノーラーは、エルサレムにはありません。しかし、エルサレムにはその複製があつて、いったん第三神殿が建つと、おそらく、それがそこに持ち込まれるでしょう。ですから、将来、第三神殿が存在します。そして、私たちが目にした、あのメノーラーが、第三神殿に立つはずです。

さて、皆さんのどれぐらいが、ご存知でしょうか？

聖書は、イエスが私たちと共に戻って来られ、彼の足が、オリーブ山に降り立つと、エルサレムは、物理的に完全に変わると告げています。

皆さんの全員が知っているはずですが、何であれ、現在の神殿の丘に建っているものは、金の岩のドームであれ、ユダヤ教の第三神殿であれ、それらは全て、主イエスがエルサレムに戻って来られる時、完全に払拭され、崩壊します。全てです。皆さん、それを理解しておられますか？聖書には、ゼカリヤ書 14 章 3 節に、そう書かれています。

3 主が出て来られる。決戦の日^あに戦うように、それらの国々と戦われる。

4 その日、主の足は、エルサレムの東に面する オリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。

5 山々の谷がアツアルにまで達するので、あなたがたは、わたしの山々の谷に逃げよう。ユダの王ウジヤの時、地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げよう。私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。

(ゼカリヤ書 14:3-5)

この聖句は、私たちがイエスの元^あに挙げられるということだけでなく、私たちが、イエスと一緒に戻って来るといふことも、確証しています。

そして、エルサレムを統治します。このエルサレムです。1000 年間。

そしてそれが起こる時、大きな地震があつて、神殿の丘に建っているものは、全てなくなります。

事実、聖書には、神殿の丘から水が吹き出すと書かれています。そしてそれは、いのちの川になるのです。見てください。ゼカリヤは言っています。

8 その日には、エルサレムから湧き水が流れ出て、その半分は東の海(死海)に、他の半分は西の海(地中海)に流れ、夏にも冬にも、それは流れる。

9 主は地のすべての王となられる。

(ゼカリヤ書 14:8-9a)

イエスが、エルサレムより統治され、主が、地の全ての王となられる。そしてその時、神殿の丘から川が流れるのです。ですから、この神殿の丘は、そこにどんな建物が建つていようと関係なく、なくなります。

そして預言者エゼキエルは、40 章以降で第四神殿について描写しています。

ですから、第三神殿だけでなく、第四神殿も建つのです。

これは、かなりすごい事ですよ。

ということで、まず、何がありましたか？

初め、私たちには、神殿もメノーラーもありませんでした。イスラエルの民には、神が彼らと共におられました。それから、神は言われました。

「わたしは、あなたがたと共にいる。しかし、あなたがたが金の子牛を作って以来、わたしは、あなたがたの宿営の中にはいたくない。わたしは、あなたがたの宿営の外にいる。」

それから、会見の天幕、その後、第一神殿、そして、第二神殿、それから 2000 年の後に第三神殿、そして、それはなくなり、イエスが戻って来られると、第四神殿があります。

それから、何かが起こります。

しかし今は、皆さんにお伝えすることが出来ません。

さて、時間に関しては、ここでいったん止まって、なぜ神は、モーセに、メノーラーをアーモンドの花を型どって作るように言われたのかについて、考えてみましょう。

なぜ、オリーブではなかったのか。なぜ、ぶどうの木ではなく、なぜ、イチジクの木でもなく、なぜ、他でもなくアーモンドなのか？

民数記 17 章 8 節には、こうあります。

8 その翌日、モーセはあかしの天幕に入って行った。すると見よ、レビの家のためのアロンの杖が芽をふき、つぼみを出し、花をつけ…

それから？

アーモンドの実を結んでいた。

(民数記 17:8)

アロンの杖は、他の何でもなく、アーモンドの実を結んだのです。面白いと思いませんか？

では、また一旦停止して、エレミヤ書の 1 章を見てみましょう。

エレミヤは、私の大好きな預言者の一人です。エレミヤは何というか、神からの励ましが必要でした。預言者というのは…私は預言者でないことは、皆さんご存知ですね？

どれぐらいの方がご存知ですか？私は、預言者ではありません。

私は、“非”営利(Profit 営利/Prophet 預言)団体の人間です。(笑)

しかし、エレミヤは預言者でした。しかしエレミヤは、預言者養成所には行っていません。

エレミヤは、主に召されました。しかし、彼には、何らかの保証が必要だったのです。

そこで主は言われました。

11 次のような主のことばが私にあった。「エレミヤ。あなたは何をみているのか。」そこで私は言った。「アーモンドの枝を見えています。」

12 すると主は私に仰せられた。「よく見たものだ。わたしのことばを実現しようと、わたしは見張っているからだ。」

(エレミヤ書 1:11-12)

フム…アーモンドの枝？

わたしのことばを実現？

申し訳ないですが、タガログ語では、つじつまが合いません。英語でもつじつまが合いません。ドイツ語でもつじつまが合いません。インドネシア語でも、つじつまが合いません。フランス語も、スペイン語も、中国語も日本語もつじつまが合いません。

しかしヘブル語では、つじつまがあうのです。

何故かというと、ヘブル語でアーモンドという言葉は、「シャーケード」

アーモンド(あめんどう)・・・「シャーケード」	שָׂרָד
見張っている・・・・・・・・「シャーカド」	שָׂרָד

「アーモンド」と「見張る」、神様のダジャレです！

そして「わたしの言葉を守る」という言葉のヘブル語は、「シャーカド」同じです。ですから神は、エレミヤに言うておられるのです。

「見ただろう？このように、わたしは、わたしの言葉を守るのだ。」

同じ言葉、同じこと、そしてそれは、昨日も、今日も、永遠に同じです。

「だから、まさにあなたが、物理的に“シャーケード”と呼ばれるものを見た通り、非物理的な形、霊的にも、わたしは、わたしの言葉を守り、実現するのだ。」と。

だから私は、私たちの神が大好きなのです！

異教の神々を拝んでいる人たちを考えてみてください。

聖書は告げています。彼らは、目があっても見る事が出来ず、口があっても語ることも出来ず、耳があっても、聞こえない。あなたがたは、彫像の前に立って、彼に何かを尋ねているが、彼には、何も出来ない。彼は、あなたの声が聞こえず、彼は、あなたが見えておらず、彼は、あなたに語れない（書記注：詩篇 115:4~8、詩篇 135:15~18、エレミヤ 5:21~22 参照）。あなたは、そこに何らかの祝福があると自分に言い聞かせますが、しかし神は、言われます。

「わたしは実現する用意が出来ている。」

「ただ言うだけでなく、わたしは実行する！」

「わたしは、わたしの言った事の全てを実行する。」

このアーモンドの花を見てください。本当に綺麗です。



アーモンドの花

1月の末に訪れると、イスラエルではこれが見られます。全てのアーモンドの木が、このように花開きます。皆さんの中にも、1月下旬から2月にかけてイスラエルを訪れる方がいますね？

皆さん、これが本当に美しいのです。木々が白く着飾ります。しかしそれは、ほんの2週間ほどで終わって、なくなってしまいます。まるで、花が訪れたように、まるで、ひとときの間だけ訪れたように、その美を、あなたは見るのです。これ、見てください。綺麗でしょ？アーモンドの木は、他のどの木よりも先に開花します。通常2月ですが、時には1月に、早々に開花します。

だから、これが驚きなのです。皆さん、

なぜなら、イエスの復活は、いつもアーモンドの木の開花にたとえられます。そのために、第一コリント 15章 20-23で、次のように書かれているのです。

20 しかし、今やキリストは、眠った者の^{はっほ}初穂として死者の中からよみがえられました。

21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。

22 すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。

23 しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。

(第一コリント 15:20-23)

ですから、主が私たちを連れていくため、携挙^{けいきよ}に戻って来られた時、私たちは、復活します。
しかし、まず、主が復活しなければなりません。彼が、初穂です。
そのために、アーモンドはいつも、イエスの復活の絵なのです。
アーモンドの花は、「このように、わたしは、わたしのことばを実現する。」と神が言っておられるのです。
「わたしは、まもなくわたしの御言葉をこの世に遣わす。」
「彼は、あなたのために死に、そして彼は…」何ですか？
よみがえる。
彼は、最初によみがえります。彼が初穂ですから。美しいですね？感動しませんか？

では、どうして私たちにはメノーラーがあるのか？
本当に、どうしてメノーラーがあるのでしょうか？考えてみてください。
ヘブル人への手紙9章が告げています。ちなみに、章全体ですよ？
私は、章全部は引用していませんが、ヘブル9章が、私たちに告げています。
「地上の聖所は、さらに優れた天の聖所の影である。」
繰り返しますが、これはヘブル人への手紙9章で、よく読めば、章全体がこの事に関して驚くことを語っています。ただ、皆さんに理解しておいて欲しいのは、24節でこう書かれています。

24 キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所に入られたのではなく、天そのものに入られたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現われてくださるのです。

(ヘブル 9:24)

わお。それから 23 節には、こうあります。

23 ですから、天にあるものにかたどったものは、これらのものによって、きよめられる必要がありました。しかし天にあるもの自体は、これよりもさらにすぐれたいけにえで、きよめられなければなりません。

24 キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所にはいられたのではなく…

(ヘブル 9:23-24a)

神は、私たちに、旧約聖書の中でヒントを与えてくださったのです。
メシアが来る時に、主がしようとしてされていることの、ハーベンジャー、影を。
そしてメノーラーは、外見や全て、アーモンドの花や全てが、イエスのことを伝えていたのです。
それも世の光としての、イエスの人生だけでなく、イエスのよみがえりについても語っていました。なぜなら、アーモンドの花というのは、最初に開花しますから。

さて、多くの人が私に尋ねます。

「ちょっと待って？ では、エルサレムで見たメノーラーが複製なら、本物のメノーラーは、どこにあるの？」

ふむ…

この写真を見てください。面白いですよ。

これは、私たちのバス運転手、ユニーヴです。彼のこと、覚えていますか？

こちらは、誰だったか定かではありませんが、

ともかく、そこは無視して、後ろを見てください。何が見えますか？

この写真の中に、私はヒントを隠しておきました。後ろに何がありますか？

誰か、分かる方はいますか？

正解！正解です。

後ろには、ご覧の通り、バチカン、あそこに青いものはありません。

しかし、ローマ・バチカンのサン・ピエトロ大聖堂にはあります。

というと、皆、言います。

「アミールさん、バチカンとは、どういう意味ですか？」

私に言えるのは、ローマ帝国の財宝の多くは、実際には、バチカンの地下に保管されているのです。

そして、皆さんにお伝えしておきたいのは、将来…私は、2～3年前にここで話ししましたが、私たちは、西ヨーロッパから、復活したローマ帝国の新興を見ることとなります。

ドイツ、フランス、その他、全ての西ヨーロッパの国々のコンビネーションです。

彼らは、欧州連合を結成しましたが、今や、欧州連合では飽き足らず、10カ国のみで、新しいものを結成しようとしています。それが、彼らの求めているもの、マクロンは、10カ国の連合を推し進めていて、ただ、今回は、自身の軍隊も持つようになります。ローマ帝国の崩壊以来、初めて、ヨーロッパは、再び、軍隊を伴って統一しようとしています。

そして聖書が告げているのは、反キリストだけでなく、彼の前に、靈的指導者が興るということ。

彼は？偽預言者です。彼は、宗教的な公人として、世界中で受け入れられなければなりません。

そして現在、我々にある選択肢で、西ヨーロッパから、しかも、死から蘇ろうとしているローマ帝国から興るものと言え、もちろん、法王です。よく考えてみてください。

もし、反キリストが、エルサレムから統治したければ？

「どうして、それが分かるんだ？」

聖書が、そう告げていますから。

第二テサロニケ 2章を見てください。聖書は反キリストについて告げています。4節です。

4 **彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。**

(第二テサロニケ 2:4)

彼は、神殿の中に入って行き、自分こそ神であると宣言します。

そして、その神殿が、本来のメノーラーを備え、“コシエル”神殿であるためには、私は…

ここからは、私自身の予測です。聖書に書かれていることではありません。預言でもありません。

私は預言者ではありませんから。ただ、私が思うのです。

偽預言者が、ユダヤ教の金のメノーラーをエルサレムに返すことを提案する可能性はあるのか？

そうすれば、反キリストが神殿から支配して、言うことが出来る。

「私こそが本当の神だ。私は、正真正銘のメノーラーまで持っている。」

でも、私が今、皆さんに言ったのは、ただの噂話です。

ただ皆さんが書き留めておくべきもの、そして、今度は、皆さんがお友だちに転送します。そうすると、皆が、聖書にそう書かれていると確信するのです。でも、それは書かれていません。

しかし私は、常に聖書に立ち返りたいのです。

ここから、このメッセージの結論に入ります。

私は、皆さんに、メノーラーとは何で、メノーラーはどこにあるのか、とかメノーラーの状態などは聞きません。私が、皆さんにお尋ねしたいのは、メノーラーとは、誰なのか？

これが、皆さんにお聞きしたい事です。

イザヤ書 60章 1～3節は、告げています。

1 **起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。**

2 **見よ。やみが地をおおい、暗やみが諸国の民をおおっている。しかし、あなたの上には主が輝き、その栄光があなたの上に現われる。**

3 **国々はあなたの光のうちに歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。**

(イザヤ書 60:1-3)

イザヤ書 9章 2節

2 やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。
(イザヤ書 9:2)

つまり、神がイスラエルの民にメノーラーを与えた時、それは、ただの影に過ぎませんでした。

その後、世に訪れようとしていた本物の光。彼の光を輝かせるために。

ところで、念のために言っておきますと、聖書が告げる、「死の陰の地に住んでいた、やみの中を歩んでいた民」というのは、一つの表現に過ぎません。

詩篇 107 篇は、こう告げています。私は、メッセージの中にこれを入れていなかったのですが、入れておくべきでした。詩篇 107 篇には、このように書かれています。10 節。

- 10 やみと死の陰に座す者、悩みと鉄のかせとに縛られている者、（なぜ？）
- 11 彼らは、神のことばに逆らい、いと高き方のさとしを侮ったのである。
- 12 それゆえ主は苦役をもって彼らの心を低くされた。彼らはよるけたが、だれも助けなかった。
- 13 この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救われた。
- 14 主は彼らをやみと死の陰から連れ出し、彼らのかせを打ち砕かれた。

(詩篇 107:10-14)

わお！ヨハネ 8 章 12 節、

12 イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは…」

ギリシャ語で、「わたしは」というのは、エゴ・エイミ [egō: e:mi]

これは、ヤハウエの神の名前です。「わたしはある」

「わたしは世の光です。わたしに従う者は決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

(ヨハネ 8:12)

皆さん、創世記 1 章を開いて、1 節を読んでください。

- 1 はじめに神は天と地とを創造された。
- 2 地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。
- 3 神は「光あれ」と言われた。…

(創世記 1:1-3 口語訳)

わお！世に光があったのです。

しかし…あの？太陽と月、星が造られたのは、4 日目です。

光とは誰だったのか？一番初め、世の光の源は、何だったのか？

次に、マタイ 5:14-15 で、主は言っておられます。

わたしが光であるだけでなく、あなたがたがわたしを信じるなら…

- 14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。
- 15 また、あかりをつけて、それをますを柀の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。

(マタイ 5:14-15)

第二コリント 4:3-6

- 3 それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々の場合に、おおいが掛かっているのです。
- 4 その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を、輝かせないようにしているのです。
- 5 私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。

- 6 「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔^{みかお}にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。

(第二コリント 4:3-6)

第二コリント 11:13-14

- 13 こういう者たちは、にせ使徒^{しと}であり、人を欺^{あざむ}く働き人であって、キリストの使徒に変装しているのです。
14 しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。

(第二コリント 11:13-14)

このように、彼は、いつもイエスを真似します。

彼はいつも、神のようになろうとします。彼は、いつも、いと高き方のようになろうとします。

- 14 …サタンさえ、光の御使いに変装するのです。

- 15 ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。彼らの最後は、そのしわざにふさわしいものとなります。

(第二コリント 11:14b-15)

これ、見てください。

フリーメイソンの定期刊行誌が、イギリスで、1935年1月19日発行版に、ある手紙の記述を掲載しました。そこには、アルバート・パイクの言葉が引用されています。彼は、フリーメイソンの最高指導者の一人で、彼が、フランスのパリで1889年7月14日に、フリーメイソンの、非常に高い位の議会を指導した時の言葉の引用です。彼の発言を見てください。

「フリーメイソンの信仰は、高階位に属する我々全員の手で、ルシファーの純粋な教義を維持することにある。仮に、ルシファーが神でないなら、アドナイはそうなのか？彼は、その行いによって、人間に対する残忍さ、背信、憎しみと、科学に対する蛮行や反感を証明している。アドナイと、彼の祭司たちは、彼を非難するだろうか？確かに、ルシファーは神である、そして残念なことに、アドナイもまた、神である。従って、サタン崇拜の教義は異端であり、真で純粋な宗教の哲学とは、ルシファーがアドナイと同等であるという信仰である。しかし、光の神であり、善の神であるルシファーは、人類のために、闇と悪の神であるアドナイに敵対して格闘している。」



アルバート・パイク

これが、フリーメイソンの神殿で教えていることです。

どれだけ暗く、どれだけ悪魔的か、お分かりいただけるでしょう。

彼らが、どのようにして光の神を取って、取り替えるかが、お分かりいただけるでしょう。

これが、彼らが教えていることです。フィリピンの中の、何千という場所で。また、世界中で。

彼らは、一見、善人に見えるのです。良いことを行^{おこな}っているように。しかし、彼らの上層部では、サタン崇拜を教えています。そして、それは常に、光の源である「光の神」を演じます。

では、皆さんに、とても“クール”なものをご覧いただこうと思います。クールなものは、好きですか？
ヘブル語の、こちらをご覧ください。

בְּרֵאשִׁית bə-rê-šît
 בָּרָא bā-rā
 אֱלֹהִים ' ē-lō-hîm;
 אֶת ' êt
 הַשָּׁמַיִם haš-šā-ma-yim
 וְאֶת wə-' êt
 הָאָרֶץ hā-' ā-reṣ.

これは、ヘブル語の創世記1章1節です。

「初めに・・・」

次に行ってくださいますか？あると良いのですが。

真ん中をご覧ください。真ん中は…

戻ってください。

真ん中は、“アレフ”と“タヴ”です。

見てください。「א」アレフ”と“׀”タヴ אַ

真ん中は、“”アレフ”と”タヴ”、アレフとタヴは、何だかご存知ですか？

「最初であり最後」「アルファでありオメガ」です。

そして今度は、次に行ってください。

1 初めに、神が天と地を創造した。

(創世記 1:1)

真ん中は、“アレフ”と“タヴ”です。ヘブル語の創世記 1:1 は、メノーラーになっていて、メインの部分は、イエスなのです。「アレフでありタヴ」「アルファでありオメガ」です。

イザヤ書 44:6

6 イスラエルの王である主、これを贖う方、万軍の主はこう仰せられる。「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はない。」

(イザヤ書 44:6)

イザヤ書 48:12

12 わたしに聞け。ヤコブよ。わたしが呼び出したイスラエルよ。わたしがそれだ。わたしは初めであり、また、終わりである。

(イザヤ書 48:12)

黙示録 1:8

8 神である主、今いまし、昔いまし、^{のち}後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

(黙示録 1:8)

わお！

それから、イザヤ書 11:2、

2 その上に、主の霊がとどまる。…

はい。こんな風に指を出してください。では、一緒に数えましょう。何の霊ですか？

「その上に、主の霊がとどまる。」

支配権です。それから、

それは知恵と悟りの霊、はかりごとと、能力の霊、主を知る知識と、主を恐れる霊である。

(イザヤ書 11:2)

神の7つの御霊。

興味深いことに、見てください。

このメノーラー。

黙示録 4:5

5 …七つのともしびが、御座の前で燃えていた。神の七つの御霊である。

(黙示録 4:5b)

イザヤ書 11 章で、私たちに与えられました。

そして、イエスご自身が、ナザレのシナゴークで、イザヤ書 61 章をお読みになり、それは、彼について告げていることを確認しました。黙示録 4:5

5 御座からいなずまと声と雷鳴が起こった。七つのともしびが御座の前で燃えていた。神の七つの御霊である。

(黙示録 4:5)

そこで、結論です。

最初に、初めは神殿がなかったと言いました。メノーラーは、確実にありませんでした。

「無神殿」と言ってください。

「無メノーラー」と言ってください。

なぜ、神殿もメノーラーもなかったのか？ それは、神がそこにおられたからです。神がそこにおられ、光があったのです。だから、神殿は必要ありませんでした。彼と一緒にいられたのです。

そしてなんと、黙示録 21:23、新しいエルサレムが出来る場面で、聖書は告げています。

23 都には、これを照らす太陽も月もいらない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。

(黙示録 21:23)

ギリシャ語は、「λυχνος (luchnos)」「光」これは、ヘブル語のメノーラーと全く同じ言葉です。

「光」

「神の小羊が、メノーラーである。」とヘブル語では言っているのです。

そこで、私の結論は、イエスは、本来の光の源であり、そして再び、唯一の光の源になります。

メノーラーは、ただ、メシアの影に過ぎません。そして、一旦、彼ご自身がここに来られたら、もはや、他のいかなる光も必要ありません。

アーメン？

ですから、正直に言うと、私は、メノーラーがどこにあらうと、どうでも良いのです。そして正直に言うと、それが、戻って来ようが、あちらにあらうが、新しいものであらうと、古いものであらうと、私は、どうでも良いのです。なぜかと言うと、私は、もはや、メノーラーの必要がない所に行きたいですから。そして、もはや、神殿の必要のない所。なぜなら、私たちは、新しいエルサレムで永遠のいのちを生きるのです。そ

して、イエス・キリストが、私たちのメノーラーで、彼の光を輝かされます。ところで、天国の啓示を与えられた人は皆、まず最初に、それまでに見たこともないような眩^{まぶ}しい光があったと言います。その輝きは…皆さんは、写真を撮るとき、光が全てですね？

ご存知でしたか？信じてください。

昨日、私が CBN にいた時、私はミイラみたいでした(笑)。

皆さん、世の光は、モーセと顔と顔を合わせて話をしたのと同じ方です。

闇の中を歩んでいた人たちに光をもたらしたのと同じ方です。

荒野でイスラエルの民と一緒におられたのと同じ方です。

また、彼らが紅海を渡る時、彼らがヨルダン川を渡る時、彼らが故国に入る時、彼らと共におられた同じ方が、彼は、昨日も、今日も、永遠に同じで、メノーラーは、ただのヒント、影に過ぎません。それはただ、これから来られる方について告げているだけ、天にある、本物の影であって、

私たちのメノーラーは、イエスです。

お父様。私たちの人生の光であられる、イエスに感謝します。この世にある、イエスの光に。

お父様。未だ、盲目になっている人たち、未だ、暗闇にいる人たちの目を開いてください。

あなたの御言葉に逆らい、あなたのご計画を拒んだ人たちの目を。

お父様。彼らが、詩篇 107 篇にあるように、あなたを呼び求めますように。

彼らがあなたを呼び求めると、あなたは、確かに応えてくださいます。

また、お父様。私たちは、世の光であることを、思い出させてください。燭台は、机の下に隠れる事は出来ません。

お父様。度々、^{たびたび}私たちが隠れようとする理由は、私たちが、あなたと共に歩んでいないことを分かっているからです。私たちの何かが間違っているからです。

お父様。今日、あなたに祈ります。

光のもとに来るべき人たちに、あなたが、光をもたらしてください。

そうすれば、私たちは、この世でキリストの使節として、あるべき姿、光となることが出来ますから。あなたに感謝し、あなたを祝福します。イエス、この世の光であられる方の御名によって祈ります。全て、神の民は言います。アーメン！

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

【写真出典一覧】

イスラエルの国旗：Wikipedia「イスラエルの国旗」

鉤十字：Wikipedia「ハーケンクロイツ」

五芒星：Wikipedia「五芒星」

メノーラー：You Tube Menorah “Menorah and Bible—A Miracle. Symbol and true meaning behind the Menorah”2017/5/10

イスラエル国家の紋章：Wikipedia「イスラエルの国章」

イタリア・ローマにあるティトゥス凱旋門のレリーフ：Wikipedia「エルサレム攻囲戦（70年）」

ウェスパシアヌスのフォーラム：WIKIMEDIA COMMONS “Category: Forum Vespasiani”

エルサレムのユダヤ人広場のメノーラー：Nori-Homepage 世界旅行記・旅、いつまでも「ようこそ！その他のスナップへ」 “黄金の燭台・メノーラー！”

「アーモンド」と「見張る」、神様のダジャレです！：牧師の書齋 エレミヤ書「3. エレミヤの召命」より抜粋

アーモンドの花：ESTILO PALMA Mallorca Magazine “Coming soon : Almond blossom season” January 12, 2018

アルバート・パイク：Wikipedia「アルバート・パイク」